

樽前山の火山活動解説資料（平成 23 年 4 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

噴煙活動は低調で、地震活動にも特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。A火口及びB噴気孔群では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要です。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙などの表面現象の状況（図 1-①②③④、図 2）

A火口の噴煙及びB噴気孔群の噴気の高さは火口縁上200m以下で、低調に経過しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図 1-⑤⑥、図 3）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源は概ね山頂火口原内の溶岩ドーム直下のごく浅い所に分布し、これまでと比べて特に変化はありませんでした。火山性微動は発生しませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 4～5）

GPS 連続観測では火山活動によると考えられる変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 5 月分）は平成 23 年 6 月 8 日に発表する予定です。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平 20 業使、第 385 号）

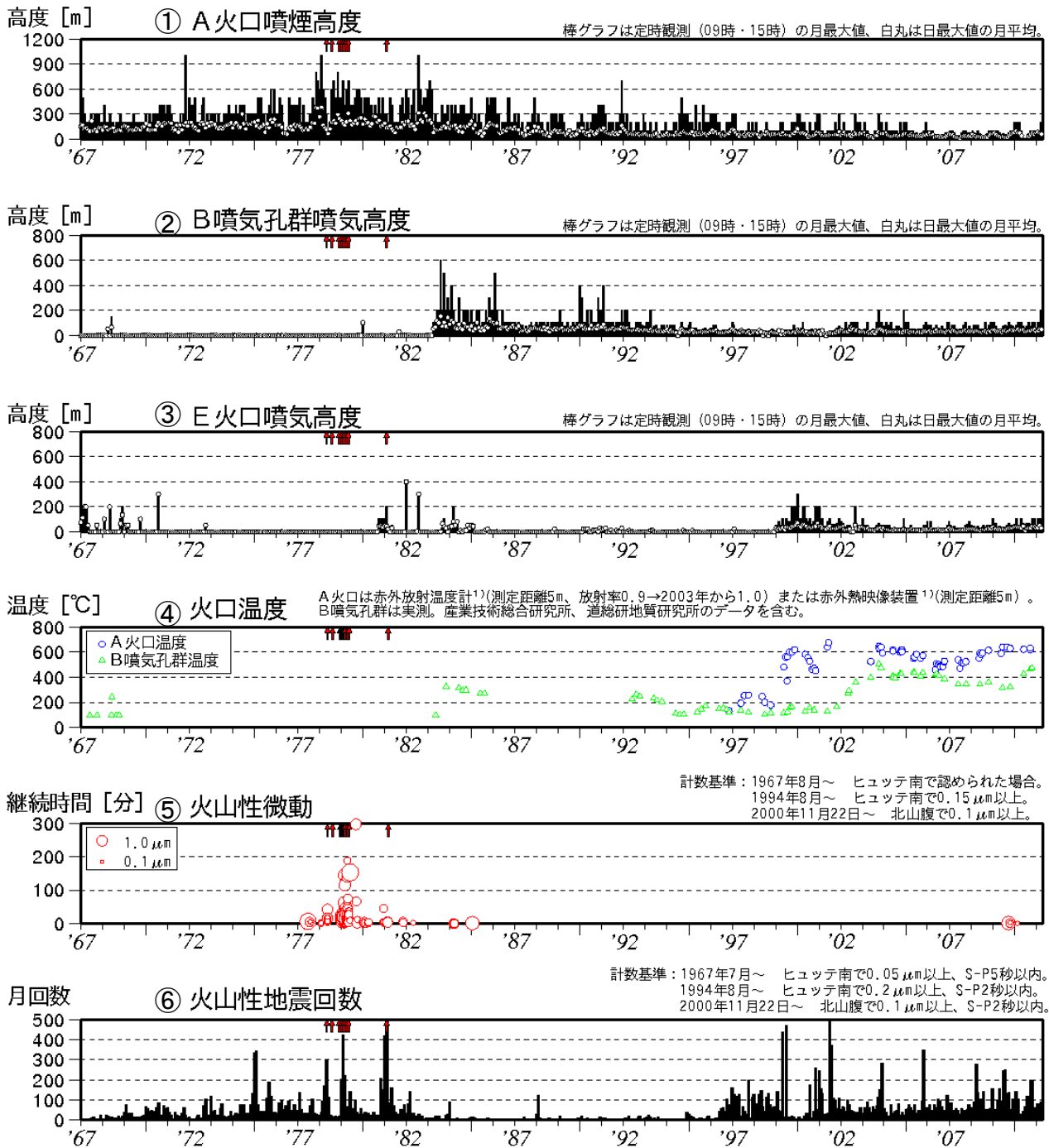


図 1※ 樽前山 長期の火山活動経過図（1967年 1 月～2011年 4 月） ↑印は噴火

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図2 樽前山 山頂溶岩ドーム付近の状況 (4月12日、別々川遠望カメラによる)
白丸内はA火口の噴煙及びB噴気孔群の噴気

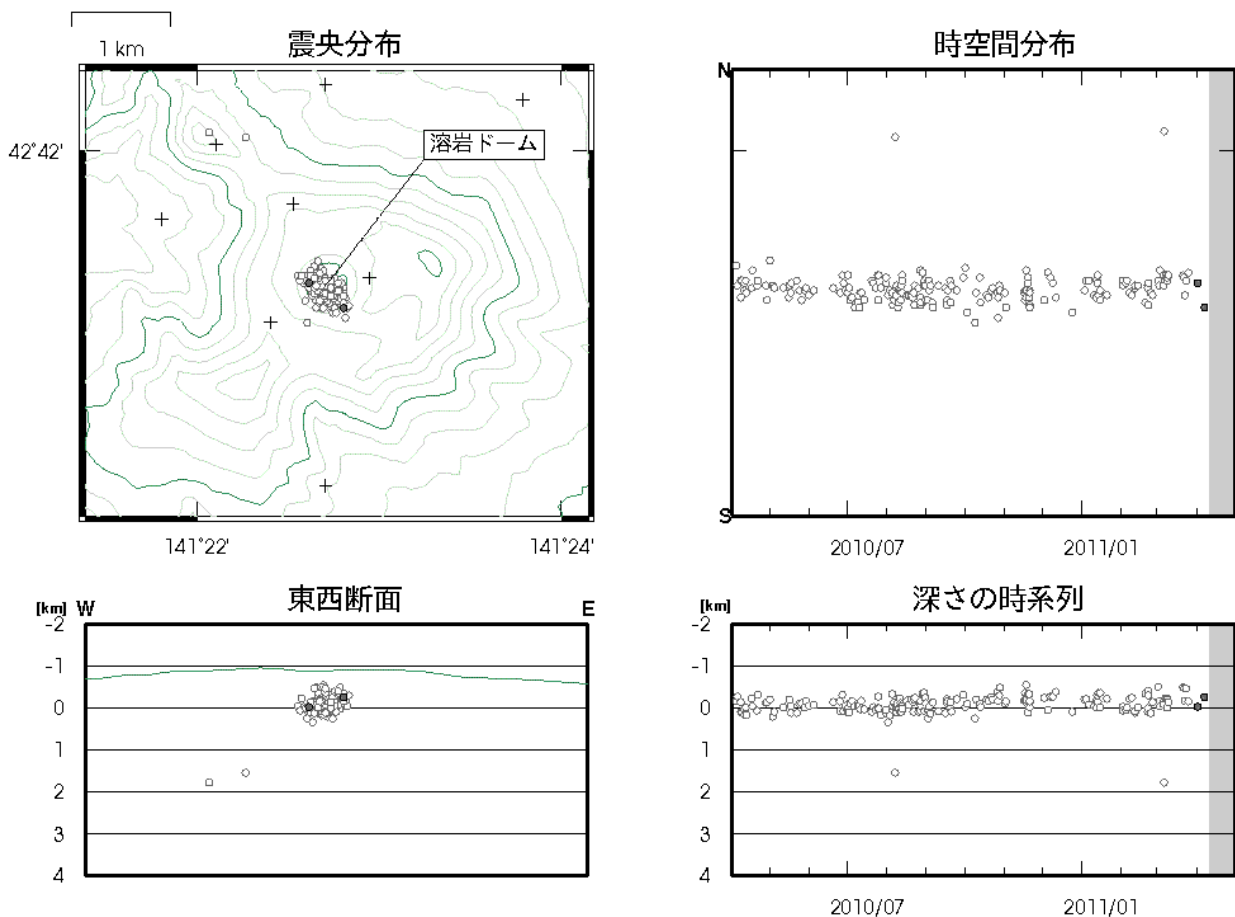


図3* 樽前山 火山性地震の震源分布 (2010年4月～2011年4月)

表示期間中、灰色の期間は一部観測点欠測のため震源決定数が減少し、精度も低下しています。

- 印：今期間 (2011年4月) の震源
- 印：前期間まで過去1年間の震源
- +印：地震観測点

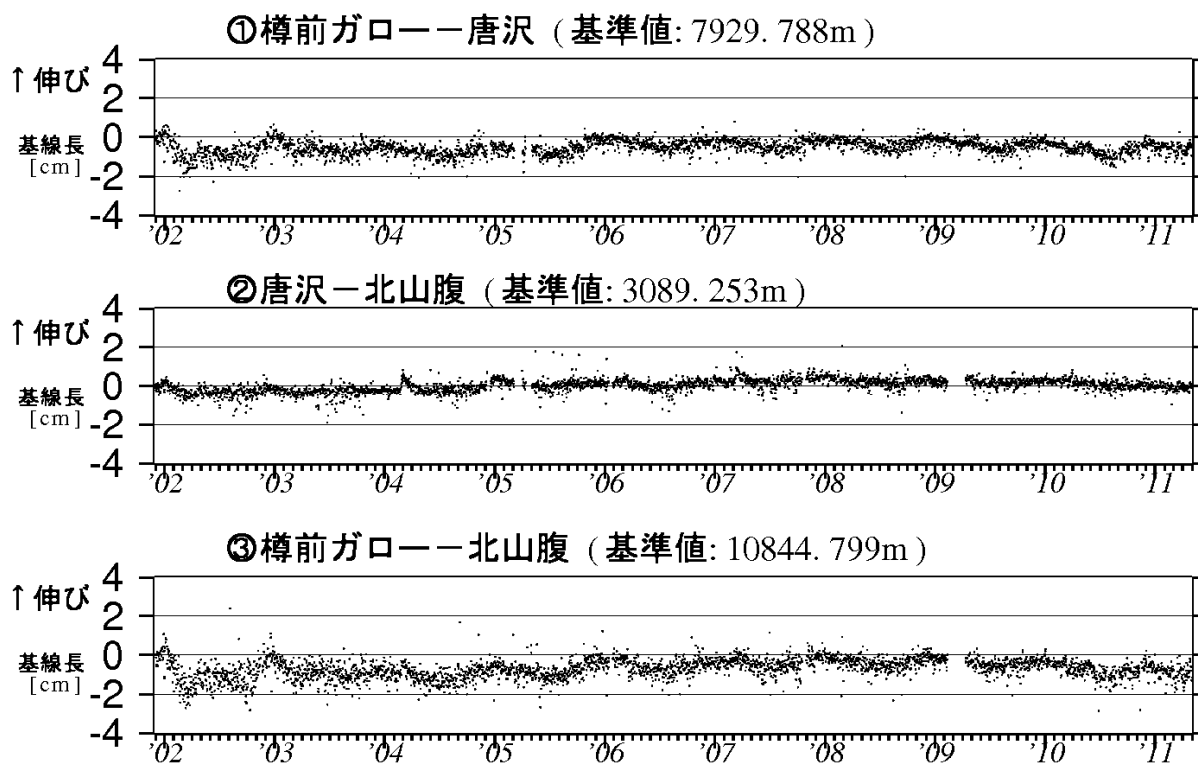


図 4 樽前山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 12 月～2011 年 4 月)
 グラフの空白部分は欠測
 GPS 基線①～③は、図 5 の①～③に対応しています。



図 5 樽前山 GPS 観測点配置図

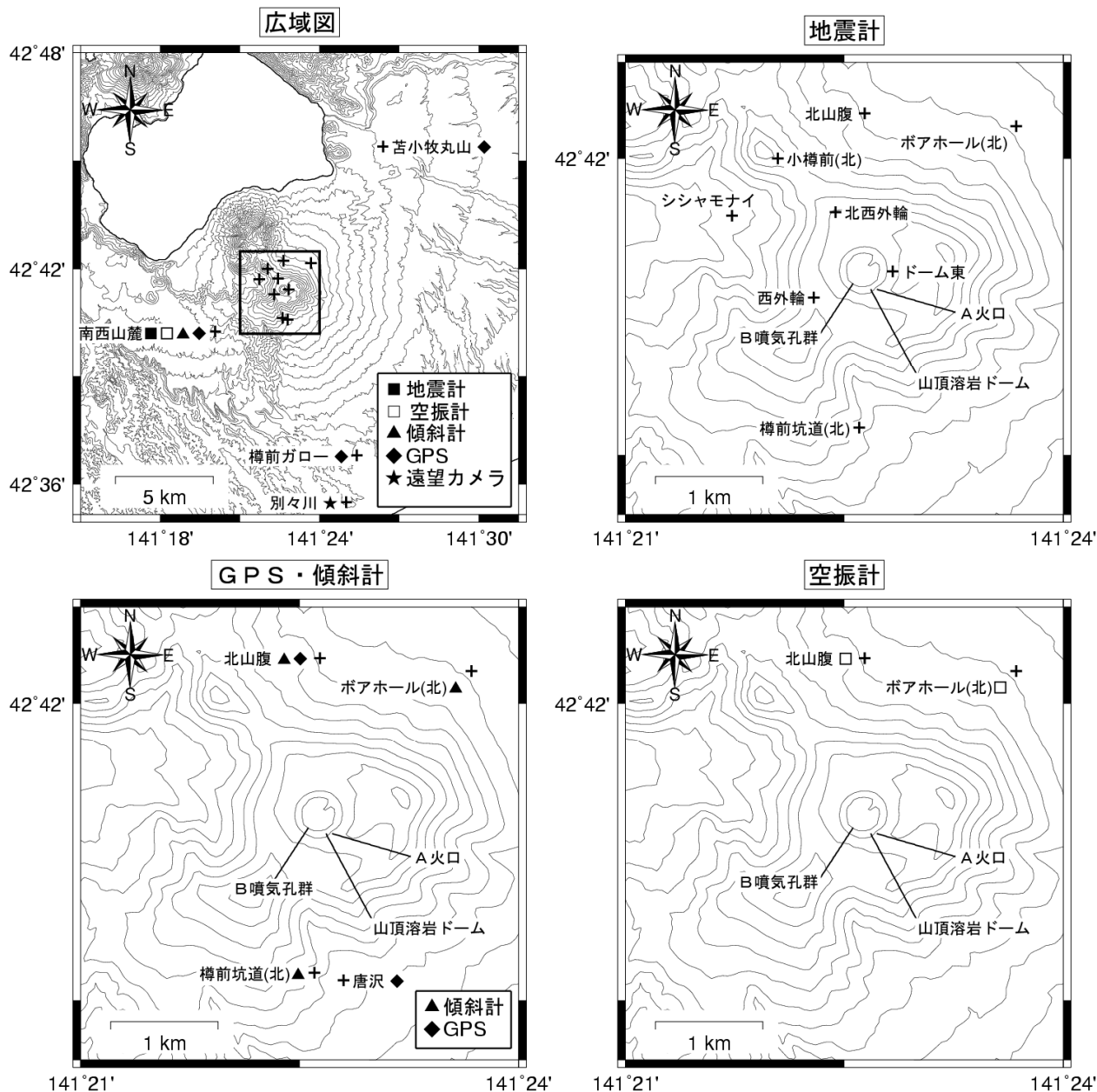


図 6 樽前山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示す

他機関の観測点には以下の記号を付している

(北) : 北海道大学

(道地) : 道総研地質研究所

(道) : 北海道